



大川橋とともに。11月には撤去作業が始まりました

昨年度、好評を博した吉野川の橋を巡るバスツアー。徳島県立総合大学校とくしま学博士の脇川 弘さんを講師に、今年度は「上流編」を開催。14名が参加し、池田大橋から大歩危橋まで吉野川に架かる10本の橋を巡りました。

「橋の博物館」と称される徳島県ですが、ツアーで巡るとそれを実感します。ワーレントラス橋、アーチ橋、吊橋など多種多様な形式、周囲の景観に合わせ、あるいはコントラストをなす色やデザインなど、ひとつとして同じものではなく見応えがあります。昭和2年（1927）完成当時、東洋一の支間長の吊橋だった三好橋、鳥が羽ばたくような美しいラインの祖谷口橋……そして、今回の注目は、撤去間近となった大川橋（↓P8）です。橋が架けられた

2020
10/31

吉野川に架かる橋

橋を通じて歴史や文化を学ぶバスツアー・上流編

現地見学会



白いアーチと水平に走る赤い橋桁が印象的な大歩危橋は、「私が架けたんです」と脇川さん。解説にも力が入ります

紅葉を始めた峡谷の景観も楽しみながら、なごやかなツアーとなりました。

経緯や通行料が必要な貸取り橋であったことなど、脇川さんが解説した後、参加者全員で記念撮影をしました。

「橋のデザインはどのように決めるの?」「橋の寿命は何年?」など熱心な参加者からの質問に、脇川さんは目を輝かせ、橋梁技術者ならではの専門的な視点で答えます。下!中流編に続いて今年も参加したという高松雪美さんは「徳島にこんなたくさん橋があるんだと驚きました。橋の歴史を知ると、より興味が深まります」と話してくれました。



橋梁技術者として多くの橋の建設に携わってきた脇川さん

2021
2/11

現場から見る吉野川

加茂第二地区築堤事業 工事現場見学

現地見学会

今年度最後の講座は、東みよし町加茂で整備中の古川樋門工事現場の見学会です。春を思わせる穏やかな日差しのもと、12名が参加し、工事や調査の担当者とともに工事現場を巡りました。

まずは事業の概要説明を受けた後、発掘調査が行われた加茂東原遺跡へ。弥生時代後期と古墳時代後期の2つの時期の竪穴式住居、柱穴や土杭、排水のための溝などの遺構・遺物を見学しました。私達の暮らす地面のほんの1〜2m下に、古代の遺跡がこんなにきれいに残っていることに驚かされました。工事が始まれば、遺跡は埋められてしまうので、見られるのは今だけ。貴重な機会でした。

さて、工事現場といえは、きつい・きつい・危険の「3K」のイメージがありました。近年はドローンや重機の遠隔操作などの技術を



リモコンを手にジブクレーンを操作。力はいらないので、だれでも簡単に操作できます



使ったICT施工が導入され、効率化・安全化が進んでいるそう。古川樋門の工事では、日本でもまだ数台という最新式の定置式水平ジブクレーンが導入されています。免許や資格がなくても操作でき、作業効率がよく、騒音や振動も少ないという優れたものです。親子で参加した志摩実咲さん(中1)は、ジブクレーンの操作にもトライ。「スピードが早くてびっくり。普段は見ることのない遺跡や工事現場を見られる新鮮でした」と話してくれました。

吉野川の歴史、文化、最新技術などにふれ、実り多い講座となりました。



親子連れの方にも参加していただきました。後方に見えるのがジブクレーンです



加茂東原遺跡